第 221 回 誘電･絶縁材料技術委員会 議事録~~(案)~~

１．日時　2016 年 6 月 3 日(金)　10:30～14:00

２．開催場所　豊橋商工会議所　405 会議室

〒440-8508　愛知県豊橋市花田町字石塚 42-1

３．出席者　１２名（順不同，敬称略，○：出席，×：欠席）

幹事団

田中委員長(都市大)	○	西川幹事(芝浦工大)	○	関口幹事(住友電工)	○
布施幹事補佐(電中研)	○	今井幹事補佐(東芝)	○	早瀬次期補佐(富士電機)記	○

1 号委員

池田委員(原子力規制庁)	○	岡本委員(富士電機)	×	小林委員(日立製作所)	×
近藤委員(日本ガイシ)	○	千綿委員(日立金属)	○	松村委員(日新電機)	○
菱川委員(ﾊﾝﾂﾏﾝ・ｼﾞｬﾊﾟﾝ)	×	平野委員(東芝)	×	藤田委員(昭和電線)	×
穂積委員(豊橋技科大)	×	本城委員(三菱電線)	×	武藤委員(三菱電機)	×
八木委員(ビスキャス)	×	－		－	

２号委員

岩本委員(東工大) 代理　小野田(兵庫県立大)	○	江原委員(東京都市大)	×	加藤委員(新潟大)	×
田中委員(早稲田大)	×	長尾委員(豊橋技科大)	×	永田委員(兵庫県立大)	×
早川委員(名古屋大)	○	－		－	

オブザーブ委員

蔵田委員(明電舎)	×	本間委員(電中研)	×	－	

４．提出資料

番号なし　第 220 回 誘電・絶縁材料技術委員会 議事録（案）

DEI-221-1　第 221 回 誘電・絶縁材料技術委員会のご案内

DEI-221-2-a　第 8 回 先進ナノ構造制御と高性能有機デバイス・ライフサイエンス応用調査専門委員会 議事録

DEI-221-2-b　第 9 回 先進ナノ構造制御と高性能有機デバイス・ライフサイエンス応用調査専門委員会 議事録

DEI-221-2-c　第 13 回「アジア地区における有機誘電性・機能性電気電子材料の次世代エレクトロニクスへの応用」に関する調査専門員会 議事録

DEI-221-3　第 3 回「進化するテーラーメイドコンポジット絶縁材料に関する調査専門委員会」議事録

DEI-221-4　電気学会「極低温環境下の電気絶縁技術」調査専門委員会 議事録

DEI-221-5　調査専門委員会フォローシート(2016 年度計画)

DEI-221-6　　2016 年度誘電絶縁材料研究会における発表の採点結果
DEI-221-7　　各賞受賞者一覧　（犬石賞・家田賞・矢作賞）
DEI-221-8　　2016 絶縁シンポ・若手セミナーの状況について
DEI-221-9　　第 47 回電気電子絶縁材料システムシンポジウム開催提案書(第 3 次案)
DEI-221-10　　第 47 回(2016)絶縁シンポ予算　第 31 回(2016)若手セミナー予算
DEI-221-11　　第 47 回絶縁シンポジウム SS セッションへの申し込みのお願い
DEI-221-12　　第 31 回誘電・絶縁材料に関する若手セミナー(第 3 次案)

５．議事内容

5-1. 議事録の確認　(今井幹事補佐)

第 220 回 誘電・絶縁材料技術委員会 議事録（案）の確認を行い一部修正(誤字)の上、承認された。議事録内の確認事項として田中委員長より以下のコメントがあった。

① 電気学会 A 部門運営委員会より第 46 回(2015)絶縁シンポの収益の 80%を翌年(2016)活動費として利用でき、第 47 回絶縁シンポ(16 万円)、第 31 回若手セミナー(5 万円)の予算に計上した。また、EINA マガジンの発行補助に宛てる。(議事録 5-3)
② 電気学会 A 部門運営委員会の今年度会計より 9 万 9 千円が誘電・絶縁材料技術委員会活動費として支給される。
③ レンセラー工科大 Schadler 教授講演招致につき、第 47 回絶縁シンポジウムではなく、調査専門委員会に招致する。(議事録 5-7)

5-2. 幹事団メンバー交代の報告(田中委員長)

委員長続投　2016 年度も田中委員長が引き続き委員長を務めることが報告された。
幹事補佐交代　今井幹事補佐の後任として早瀬(富士電機)の紹介があった。
今井幹事補佐の任期は第 47 回絶縁シンポまでとする。

5-3. A 部門運営委員会での議事内容の報告(田中委員長　資料なし)

実施日：2016 年 5 月 20 日(金)　場所：電気学会会議室

①A 部門運営委員会議事関連報告

電気学会役員会より各部門運営委員会へ「独立採算」「収益改善」を行う指示があり、技術委員会としても意識して活動する働きかけがあった。今年度は委員会活動収益の 80%が次年度活動費として支給される方針。

②A 部門役員会議事関連報告

役員会では論文誌や研究活動などに評価(A-D)を行っており、A 部門論文誌は D 評価である旨、今年度の第 47 回絶縁シンポにつき予算を説明し、承認を得た旨が報告された。論文誌の評価は論文件数の目標設定との乖離が大きい(70%にとどまる)ためとのこと。

関連コメント

・論文誌のありかたが変化しており、一般論文件数の低下が懸念されている。一方で、昨年度の A 部門大会(金沢)は参加者が多く盛況。

・英文特集号を組むと、論文著者は IEEE や DEIS に投稿する(競合すると負ける)。
・論文冊子が電子化されて以降ダウンロード数が減る傾向にある。
・DEI は査読が厳しく、投稿から発効に時間がかかりすぎている。
・B 部門誌や共通誌は投稿数が多い。
・査読者リストの更新が行われていない。仕組みに課題がある。

③国際活動委員会(西川幹事)
技術委員会関連委員の人事につき報告があった。(A 部門役員会副部門長に永田委員、総務企画担当に岡本委員が就任予定)

④補助金申請の制度(西川幹事)
各部門より理事会へ申請することで部門活性化活動(会議費など)に対する補助を受けられる。実質的な活動のある技術委員会から部門を動かして申請するべき。

5-4. 各調査専門委員会実施報告

①第 8 回　先進ナノ構造制御と高性能有機デバイス・ライフサイエンス応用調査専門委員会(資料 221-2-a)
加藤委員欠席のため議事録配布のみ。

②第 9 回　同上(資料 221-2-b)
加藤委員欠席のため議事録配布のみ。

③第 13 回「アジア地区における有機誘電性・機能性電気電子材料の次世代エレクトロニクスへの応用」に関する調査専門員会(小野田委員　資料 221-2-c)
特別報告 1 件(宇佐美先生(大阪産大))が行われた。委員会終了年度(H29 年 3 月終了)であり、技術報告書を 3 月に原稿提出を行い纏める方針が報告された。関連して田中祀捷先生の講演(9 月)、誘電・絶縁材料研究会の開催準(準備中)を予定。
岩本委員・小野田委員定年に合わせ、関連技術委員会を加藤委員の技術委員会に一本化する旨の説明があった。アジア地区との交流活動の引継ぎについては、加藤委員・馬場先生を中心に継続いただく予定とのこと。

④第 3 回「進化するテーラーメイドコンポジット絶縁材料に関する調査専門委員会」(今井幹事補佐　資料 221-3)
委員による講演(3 件)と、関連文献調査報告が行われた。第 5 回開催場所として豊橋を予定。

⑤電気学会「極低温環境下の電気絶縁技術」調査専門委員会(早川委員　資料 221-4)
委員変更（石井委員(デュポン)⇒横山委員(旭・デュポン))の報告があった。委員会の中で、文献リストに事故事例や不具合事例の追加を望む声があがっている旨が報告された。

⑥調査専門委員会フォロー(西川幹事　資料 221-5)
各調査専門委員会の活動状況の概要につき報告された。

- インバータ駆動モータコイルの絶縁評価法調査専門委員会(永田委員長)について活動期間延期結果と、整理委員会の状況につき確認する（対応：田中委員長)。
- 屋外用ポリマー絶縁材料の性能評価・改質(本間委員長)について、解散報告書提出済であり、技術報告書の原稿を 2016/6 提出予定と報告された。

⑦平成 28 年度 誘電・絶縁材料研究会、技術委員会、その他行事予定(西川幹事　資料 221-5)
各行事の状況と予定について報告があり、行事予定未定箇所につき、以下の対応を行うことが確認された。

- 全国大会にてシンポジウムを行う調査専門委員会として加藤委員の調査専門委員会を候補とする(対応：西川幹事)。(参考：前年度は小野田委員、永田委員)
- 第 47 回電気電子絶縁材料システムシンポジウムに IEEE DEIS の協賛を WEB 等公式に明示する(対応：布施幹事補佐)。
- 12 月開催予定の研究会(コンポジット絶縁材料・空間電荷)の取りまとめを村上先生に打診する(対応：田中委員長)。

また、全国大会の日程確認があった（開催月日：H29/3/15-17　開催地：富山大学)。
3 月開催予定の研究会(劣化診断、機器・ケーブル絶縁一般)につき、電線・ケーブル技術委員会との共催は好意的に思われているか質問があり、好意的であると報告があった。
活動状況の新フォーマットに記載する項目把握のためのルール作りについて議論され、関連議事録を各委員会で議事録案が承認された段階で、pdf にして幹事に送るルールを作る方針とした。その際、研究会の報告(発表)件数は、表彰者の人数にかかわるため重要とのコメントがあった。

5-5. 表彰関連報告
①2016 年度誘電絶縁材料研究会における発表の採点結果(関口幹事　資料 221-6)
各研究会発表の採点結果・推薦者の現状が報告された。この際、リストの担当件数および番号にて 16-018～030 の発表が欠落しており、中止となった研究会と推定され、確認中とのこと(対応：関口幹事)。
田中委員長より今後の採点に影響を与えないために年度途中で点数表を出さなくても良いのではとコメントがあった。
関口幹事より共催の委員会間の採点方法に違いがあり、誘電・絶縁材料技術委員会では座長に一任だが、放電技術委員会では複数名の採点を平均して行うとのコメントがあった。

②各賞受賞者一覧（犬石賞・家田賞・矢作賞）(関口幹事　資料 221-7)
今年度の受賞候補者につき報告があった。
　2016 年家田賞：匹田先生(九工大)
　2016 年矢作賞：杣謙一郎氏(元日立電線)
　2017 年犬石賞：Prof. C. Laurent(Universite Paul Sabatier, France)
誘電・絶縁材料技術委員会の表彰候補者について、リストの更新がなされていないことが課題であり、

候補者の推挙や推薦人につき議論が必要であるとコメントがあった。

5-6. 2016 絶縁シンポ・若手セミナー関連報告(布施幹事補佐　資料 221-8～221-12)

①概要と現状の申し込み状況

・2016 絶縁シンポ(8/31～9/2)：申込 56 件+記念講演 2 件（予定 70 件)
　オーラル：22+2(記念講演)+1(計算化学企画セッション)件
　ポスター：27 件
　SS セッション：6 件　（※9/2 追記　⇒最終 8 件）
　引き続き申込を受付する。論文原稿締め切り：2016 年 7 月 8 日
・若手セミナー（9/2～9/3）：申込 5 名(学生 2 名，社会人 3 名）（※9/2 追記⇒最終 37 名内学生 21 名）
　若手セミナーについてはこれから絶縁シンポ参加の大学等に対し申込を働きかけする。
　特別講演は検討中(6 月中旬に検討結果含めメール会議)。

②絶縁シンポ開催提案書

絶縁シンポの開催提案書案(第 3 次案)が報告された。誤記修正(期日 9 月 1 日を 2 日に修正)。
現在申込者に原稿執筆依頼中(担当：西川幹事)。現地実行委員として村上先生、栗本先生に打診し、了承を得たことが報告された。
今後のスケジュールは以下のとおり

論文採択決定と原稿依頼	2016 年 5 月 30 日(月)
論文原稿締め切り	2016 年 7 月 8 日(金)
第 47 回絶縁シンポ開催	2016 年 8 月 31 日～9 月 2 日

③絶縁シンポ予算・費用

予算（収入・支出）状況につき報告があり、印刷製本費の削減について議論された。

・予稿集 120 部＋USB120 部⇒100 万円
・予稿集 30 部＋USB120 部⇒70 万円、かつ予稿集売上(1 冊 5 千円)は収入となる。
・学生会員は 5 千円(USB 予稿含む)とし、参加を促す
・一般会員費を 2 万円にする案も検討する(1 万 5 千円に抑えたい)
・印刷のグレードを落とした場合の効果算出(担当：布施幹事補佐)

④SS セッション（今井幹事補佐　資料 221-11）

現在 6 件の申し込みがあるが、2～3 件の増を目指すため、引き続き各委員を通じてお願いする旨の報告があった。

⑤若手セミナー開催提案書

若手セミナーの開催提案書案(第 3 次案)が報告された。

・　9/2 (金)PM に計算化学（ガウシアン）講習会、9/3(土)に特別講演・グループワークを予定。
・　計算化学講習会：メーカーにコンタクト済、チュートリアル講義費用調査済。講習内容はあるてい

ど調整可とのこと。参加者増加・講習会費用対策として、講習会のみ参加を認めることも検討に含める。高田先生(都市大)，早瀬次期幹事補佐を検討チームに加えることを検討する(担当：布施幹事補佐)。

- グループワーク：会社の新人研修で行うグループワークをイメージ(企業側へ参考資料を依頼)。
- 特別講演は講演者選定後に委員長より打診。
- 6 月中旬にメール会議、7 月に内容決定予定。

⑥若手セミナー予算・費用

予算（収入・支出）状況につき報告があり、費用削減について議論された。

・学生参加者数 30 名、一般参加者数 10 名として検討。

・昨年度収益より 5 万円を補助費として活用。

・チュートリアル講義料、PC レンタル料(1 台/2 人)が予算圧迫、削減可能性を検討。

5-7. その他議事

①関連報告(布施幹事補佐　資料なし)

八木氏(代理布施幹事補佐)より、編集委員会関連の議事が報告された。

編集委員に藤田氏（昭和電線）後任として、八木氏(ビスキャス)が着任

5/25 編集委員会開催し、次の議事があった。

A 部門ニュースレター：2016 年度の担当割り当て済み(電中研栗原氏)

2016 年 11 月号　研究室紹介レター：誘電・絶縁材料技術委員会にて研究室選定願い

2017 年 9/5-6A 部門大会(九工大)：計 262 件の応募があり、技術委員会に座長振り分け願い

共通部門誌：インパクトファクター向上策として招待論文（インバイテッドレビューペーパー）の掲載（論文投稿量無料とする）が提案されている。各技術委員会で議論いただき、招待論文執筆候補者が見つかった場合、電中研倉石氏を通じて依頼する。A 部門ではこれまでに 2 件（電磁波関連、産総研材料・分子関連）実施済。追加案として田中祀捷先生に英文レビューペーパーを依頼する。(担当：田中委員長)

各委員より以下のコメントがあった。

共通英文論文誌への投稿は数がある（中国・アジア）が、被引用が増えずインパクトファクターが増えない。英文の引用されやすいレビュー論文を望む。

②補助金関連報告(西川幹事　資料なし)

電気学会より支給される活動補助金（研究活動活性化のための補助・会議費・会場費の補助）について報告された。

- 2016 年度の A 部門関連研究会・大会・論文の売り上げ 3%、上限なし、最低 1 万円が次年度(2017 年度)の補助金として支給される。
- 誘電・絶縁材料技術研究会関連の収益も一旦 A 部門の収益としてカウントされ、次年度に支給される。赤字の扱い・合算については詳細未定

③その他委員会予定（田中委員長　資料なし）

A 部門研究調査運営委員会予定

7/21　111 回

9/20　112 回

10/18　113 回委員長対応不可のため幹事団で代理出席願い

2017/3/6　114 回

2017/5/19　115 回

６．次回予定

日程：2016 年 9 月 2 日(金)PM　13:30～17:00

場所：岐阜大学　サテライトキャンパス　多目的講義室（大）

以上